

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 2月 15日

事業所名 児童発達支援センター倉敷学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	44	3	個別、小グループで支援ができるように北側の教室も使用している	
	2	職員の配置数は適切である	42	5	基準以上の直接支援職員を配置(各クラス5~8名職員配置)しこどもの発達支援を行っている。	職員の知識や技術の習得は、引き続き職員研修・OJTを行う
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	43	4	子どもの発達状態に合わせて構造化をおこなっている。車椅子利用されているお子さんに合わせてバリアフリーにはしている	子ども一人一人の障害特性に配慮し、引き続き遊具、玩具、支援グッズの入れ替えを行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	44	3	生活空間は、安全生活に過ごせるよう掃除、消毒を毎日行っている。	・今年度ランチルームの構造化の見直しを行い、ルーム内が見渡せるテーブル・イスの配置にした。充分身体を動かす活動ができるようホール内にボルダリングを整備した。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	43	3	・目標管理面接を年間3回実施し、目標の確認や振り返りを行っている。 ・事業計画の半期の振り返りや改善を行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	46	1	・行事、活動後には保護者アンケート実施。次年度計画に反映し業務改善につなげている。 ・第三者評価を定期的を受審している。	・評価や振り返りが難しいこともあるがクラス会議や職員会議などで改善に努めている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	47	0	・お便りや、保護者会で評価結果を公表し周知している。 ・法人ホームページに掲載。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	46	1	評価後、事業計画に記載し改善すべき点に取り組んでいる。取り組み内容は、年に一度第三者評価機関のコンサルティングを受けている	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	46	1	・法人階層別研修・専門研修・事業所内研修実施している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	47	0	・お子さんの生活環境(家庭・地域)、好きなこと、強み、活動面も含めたアセスメントを実施。 ・サービス担当者会議を行い、様々な視点から評価意見を取り入れている。	アセスメント、原案作成、担当者会議、計画立案、保護者との同意形成後支援の実施、実施後のモニタリングのサイクルで支援を行っている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	47	0	事業所内で共通のアセスメント項目に沿って把握している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	47	0	お子さんが地域の中で育み生活する姿を根幹に、計画を立案している。家族支援の内容も項目に取り入れている。	ガイドラインをもとにした倉敷学園の業務指針があり毎年見直しをしている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	47	0	児童発達支援計画に沿った、1日のタイムテーブルを作成している。子供の生活リズムを大切に日常生活の習得や、子どもが自発的に活動ができるよう支援を行っている	。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	45	2	年間行事に沿って、季節行事、運動会、課外活動等は、担当を決めチームで立案を行う。日常の活動プログラムは、クラス担任を中心に行なう	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	46	1	・年間活動計画に基づき、季節の活動、地域活動等、内容に工夫をしている。・音楽活動、花育、アート活動にも力を入れている	季節の活動に応じた取り組みは、導入～終結まで丁寧に行う工夫をしていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	46	1	子どもの発達の段階を丁寧に把握したうえで、子どもさんの状況に合わせて、個別活動と集団活動を組み合わせながら設定している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	44	3	・朝礼、クラスミーティングでその日の活動、職員の動きを確認している。 ・添乗業務や囑託職員で参加できない職員に対しては、朝礼ノートやクラスノート、ホワイトボードで確認し支援に入るよう工夫している	毎日の朝礼、終礼、クラス会議、職員会議で情報共有、役割について認識合わせを引き続き行う
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	39	8	支援記録やクラス回覧ノート、打ち合わせや振り返りを通して、職員間で情報共有を行っている	業務で不在(バス添乗・タイムケア・勤務時間の違い)の職員に対しては決まった日時の振り返りが十分できていないため、翌朝のミーティングや回覧ノートで情報共有化を図っていく
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	45	2	支援計画に沿って実施できたか、その内容を記録し、モニタリングに活用している	日々の支援記録、家族の連絡帳、写真や動画も取り入れて実施していく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	45	2	半年ごとにモニタリングを実施し、再アセスメントを行う	
関係機関	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	46	1	原則は児発管が参加している、児の日々の様子を把握しているクラス担任や、専門職(OT,ST)が必要時には参画する	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	46	1	保健師・子ども相談支援センター・児童相談所、地域の子育て支援センターとの連携を行っている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	47	0	医療的ケア児、重症心身障害児も同様関係機関と連携を取り支援を行う。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	45	2	医療ケアについての指示、確認は必要時主治医、関係医療機関と連絡体制を整えている。受信時同行し対応方法を見て学んでい	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	44	3	・移行時移行予定の保育園等に連絡し、相互に来園を行い、日常の様子相互理解、又書類を通して情報共有している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
や保護者との連携関係機関や保護者との連携	26	44	3	上記同様、小学校等への移行支援も情報共有と相互理解を図っている。	
	27	40	7	倉敷市発達障害者支援センターは、月一回会議を持ち助言を受けている。児童発達支援の研修も参加しそれぞれの役割に応じた研修を受けている	
	28	28	19	敷地内の保育園と行事や活動を行う機会がある	
	29	37	9	自立支援協議会の子ども部会(療育)、相談支援部会に参加している。庄小地区小地域ケア会議に参加している。	
	30	47	0	送迎時に保護者と直接話す時間を持つようになっている。参観週間やいつでも参観が可能な工夫は行っている	
	31	46	1	前期、後期 6回クールで実施している。専門職や障害者支援に携わる支援者にも参加してもらいライフスタイルに応じた家族支援プログラムを工夫している	
	32	45	2	就園前には、説明会を設けている。継続児にも同様説明会を開催している。	
	33	46	1	・原案とともに説明して、保護者から同意を得ている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	47	0	個別懇談は年2回実施。家庭訪問年一回実施。必要時はその都度対応。コミュニケーションノートを活用している	学園内の専門職や児童発達支援管理責任者等相談に応じて、保護者に寄り添い電話や面談を行うように工夫している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	45	2	保護者会、保護者サロン活動、おやじの会など支えあいの場を企画したり運営をサポートしている。	今年度はコロナにより活動の機会が減少した。オンラインや少人数対応で実施したい
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	47	0	迅速かつ適切に対応するため苦情解決の仕組みを作っている。年度初めに苦情窓口について保護者に周知し第三者委員の連絡先も伝えている。また苦情や要望については毎月のお便りに記載をしている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	47	0	園便り、ホームページ、広報誌にて発信している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	47	0	・写真は、同意書で確認し、行事ごとに使用の許可を確認し、了承を得て掲載している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	47	0	話す場所、時間帯テンポ、写真・絵など視覚的活用、情報量など調整している。関係機関(相談員・保健師)の同行が望ましい時には対応を実施している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	45	2	農業活動を地域住民と行い交流の機会を持つようになっている。	
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	47	0	職員への周知、訓練はしているが保護者への周知は不十分。	発生後の保護者周知の訓練を実施する	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	47	0	栗坂地域内の事業所と合同避難訓練を実施している。月に一回避難訓練実施している。3日分の備蓄は備えている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	45	2	入園前に書面で事前に確認している。園で服薬が必要な場合は書面で依頼して頂き内容を確認したうえで実施している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	47	0	・医師の指示の元、保護者と面談し、同意を得て提供している。 確実に実施できるよう、朝礼時に本日のアレルギー食の確認し視覚的に見やすいようにボードに書く、配膳盆を変えるなど工夫をしている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	45	2	朝礼・ミーティング時に共有している	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	45	2	年に二回事業所内研修実施	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	46	1	学園身体拘束に関するガイドラインに沿って実施している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。